



ホットスポット・パトロールで 住民力を高めよう

発行／全国読売防犯協会 協力／警察庁、警視庁、立正大学教授[犯罪学]小宮信夫

どろぼうは家に侵入する前に地域を下見するといいます。私たちは外見では誰が犯罪者か見分けがつか
ません。しかし、「住民が目を光らせて地域を守っている」「街が地域の人によって管理されている」と感じる
雰囲気が出ることによって、犯罪者に犯行を思いとどまらせることはできるのです。

「ホットスポット・パトロール」は、地域をくまなく巡回するパトロールとは異なり、犯罪が起こりやすい場所
(ホットスポット)に一定時間、とどまるなど重点的なパトロールを実施する手法です。住民の力を結集し、
このパトロールを実践してわが街を守りましょう!

防 犯 クイズ

(解説は中面)

1

下のイラストは公園の比較です。
さて、どちらの公園の危険性が高いでしょうか？
また、その問題点は何でしょうか？

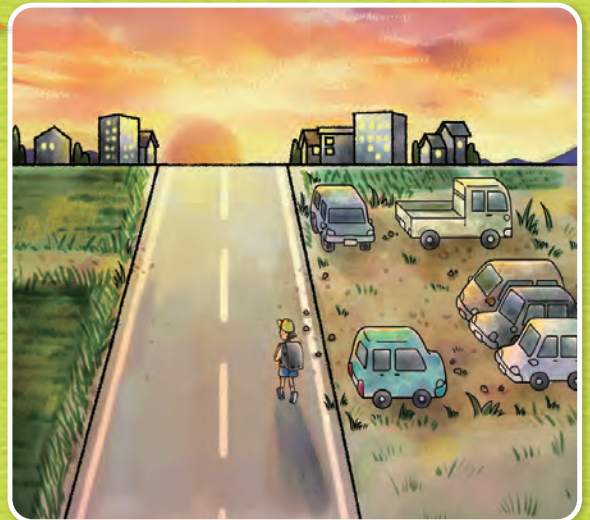


2

左のイラストは男女同じ
入り口の公衆トイレです。
このトイレの問題点は
何でしょうか？

3

右のイラストで注意する点は
何でしょうか？

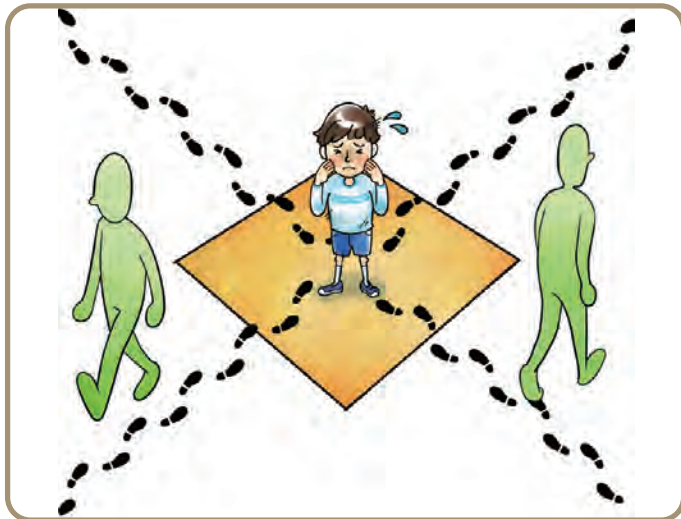


✦ ホットスポット・パトロールとは

犯罪が起こりやすいと言われる「**“入りやすく”+“見えにくい”**」場所=ホットスポットに注目し、そこを重点的にパトロールすることで、犯罪者にプレッシャーを与え、犯行をあきらめさせることがねらいです。

入りやすい場所

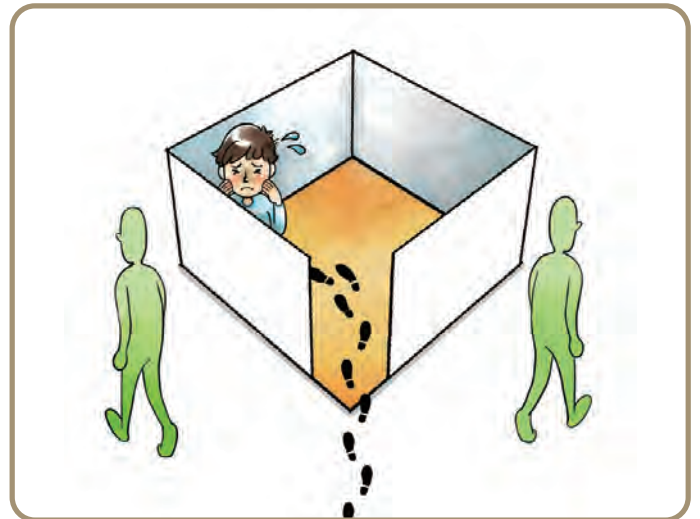
犯罪者が怪しまれることなく、簡単にターゲットに近づけます。



- 入るのにじゃまになるものがない。
- 境がはっきりしていない。
- 出入口(逃げ道)が多い。

見えにくい場所

犯罪が目撃されにくく、通報もされにくくなります。



- 見るのにじゃまなものがある。うす暗い。
- 人がいなくて見てもらえない。
- 人が多すぎて見てもらえない。

✦ ホットスポットはこんなところ [具体例] ※1面防犯クイズの解説



① 公園

公園の樹木が目隠しになり周囲から見えにくく、フェンスがないため、外から入りやすい場所です。落書き、ごみの散乱のほか、ガラス窓も割れていて管理が悪く、地域の関心のなさがうかがえます。



② 男女同じ入り口のトイレ

男性が女性のすぐ後をついて行っても不審に思われず、男性が女性用トイレに入りやすい危険な場所です(男性が女性と一緒にスッと個室に入り込める)。



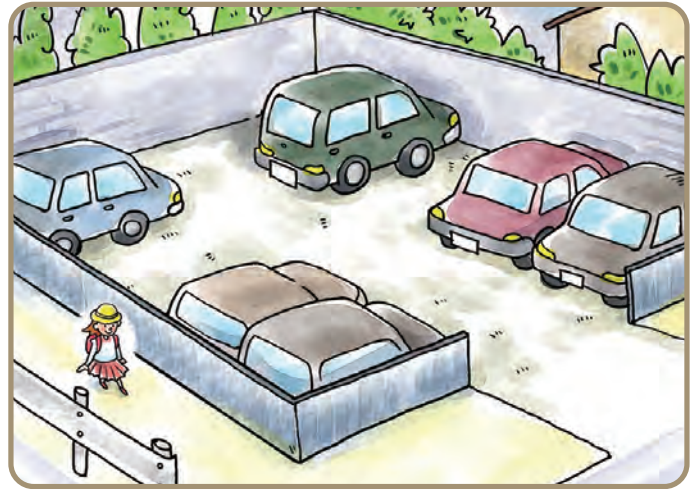
③ 空き地(死角がなくとも人目につかない場所)

空き地がフェンスやロープで囲まれていなければ入りやすく、周囲に家が少ないと見えにくい場所(窃盗団の作戦本部や誘拐犯の物色場所)となります。



④ 高い塀が並んでいる道

高い塀が並んでいる道は、住民の視線が家の外まで届かず、犯罪者にとって犯罪をしやすい場所となります（物理的に『見えにくい場所』）。



⑤ 周りから見えにくい駐車場

高い塀や壁などに囲まれた駐車場は周りから見えにくく、犯罪をしやすい場所（車上ねらいや窃盗団の作戦本部、子どもの連れ込みなど）となります。



⑥ 落書きやゴミが多い場所

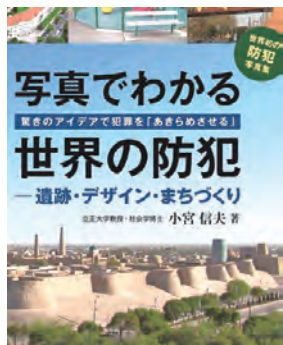
落書きやゴミが多い場所は、『住民の関心が薄く、管理されていない場所』と認識され、犯罪をしやすい場所となります（心理的に『見えにくい場所』）。



⑦ 人通りの多い場所

人通りの多いショッピングセンターや駅などは、注意力が分散するため、犯罪（物色、接触）に気づきにくい場所となります（心理的に『見えにくい場所』）。

各ホットスポットにしばらく（5分～10分程度）とどまりながらパトロールしましょう



小宮先生からの激励メッセージ

ホットスポット・パトロールは、防犯の世界標準である「犯罪機会論（防犯環境設計+割れ窓理論）」に理論的根拠を持つ手法です。今や、地球規模で行われていますが、日本での実施率はまだ1割にも達していません。ホットスポット・パトロールは、防犯効果が証明された唯一のパトロール方法であり、これなら、無理なく無駄なく、楽しみながら続けられます。

そのためにはまず、地域でどこがホットスポット（犯罪が起こりやすい場所）なのかを探さなければなりません。そのお役に立てるのが、『写真でわかる世界の防犯——遺跡・デザイン・まちづくり』（小学館）です。私が撮影した景色を見ながら、安全と危険のポイントを解説した「写真集」です。ぜひこれを参考に、皆さんの地域の防犯活動を、新鮮で奥深い活動に進化させてください。



【小宮信夫プロフィール】 立正大学文学部教授（社会学博士）。日本人として初めて英国ケンブリッジ大学大学院犯罪学研究科を修了。国連アジア極東犯罪防止研修所、法務省法務総合研究所などを経て現職。「地域安全マップ」の考案者。警察庁「持続可能な安全・安心まちづくりの推進方策に係る調査研究会」座長などを歴任。趣味・嗜好は、旅行、映画、落語、音楽、スポーツ、アイスクリーム。



公式ホームページ「小宮信夫の犯罪学の部屋」

<http://www.nobuokomiya.com>

こちらのQRコードからホームページへ >>>



✦パトロールは何人でやるの？

- ・トラブルや緊急事態に備え、複数人で行動しましょう。
- ・パトロール中は責任者(リーダー)を決め、その指揮のもとに行動しましょう。

✦どんな服装でするの？

- ・昼夜を問わず、蛍光色などの目立つ服装を着用しましょう。
- ・靴は歩きやすい運動靴などを履きましょう。
- ・できるだけメンバー内で統一的な服装(帽子・ジャンパー・腕章・タスキなどを着用)で実施しましょう。

✦どんな物を持つの？

- ・ケータイ・スマホ、笛や防犯ブザーなどを携行しましょう。
- ・夜間に実施する場合は、懐中電灯などを携行しましょう。
- ・メモ帳、筆記用具も用意しましょう。
(事件、事故などを発見した時に記録します)



「安心・安全な街づくり」Y&Cは地域の防犯活動に取り組んでいます



「こども110番の家」

YC店舗は「こども110番の家」として、子どもたちが困った時に駆け込める体制をとっています。



業務中、不審者に注意

スタッフは業務で受け持ち区域をくまなく回っています。配達や集金時など不審者や不審車両を見つけたら、110番通報を心掛けています。

お年寄りの見守り

新聞がたまっていないか? 日中でも雨戸が閉まったまま...暗くなっても明かりがつかない...など、異常を感じたら警察や行政機関へ連絡します。



防犯情報を発信

YCで制作したミニコミ紙やチラシで防犯情報を発信しています。また、警察署で作成したチラシを新聞に折り込んで配布しています。



全国読売防犯協会は、「安全・安心な街づくり」のため、下記の防犯対策に関連したセミナーの講師派遣を行っています(一部有料)。ご希望の学校、自治体、団体等がありましたら、ホームページ「ぼうはん日本」をご覧ください。事務局(TEL.03-3216-9024、平日9:30-17:30)までお問い合わせください。

- ① 児童の連れ去り被害防止
- ② ケータイ・スマホなどネットの安全な使い方
- ③ 青少年非行防止、薬物乱用防止
- ④ オレオレ詐欺など特殊詐欺被害防止
- ⑤ ドロボー、空き巣などの防犯対策



Y&C あなたの街の読売センターからお届けしています



全国読売防犯協会
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社販売局内 03-3216-9024
1706/2750M